

# 市長から市民のみなさんへ

84

山陽小野田市長 白井 博文

## 盛況に終わった「山陽小野田市民まつり」

10月25日・26日、「第3回山陽小野田市民まつり」が開催され、若干天候が崩れたものの、両日とも大勢の方にご来場いただき、盛況のうちに終わることができました。限られた予算の中で、祭りの企画・運営に携わっていただいた小野田青年会議所、小野田・山陽の両商工会議所青年部のみなさんの準備段階からのご労苦は想像に難くありません。みなさんの献身的な活動にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

この時季は、市民祭りに前後し、毎週のように開催される市内各地のお祭りにご招待をいただきます。都合がつく限り出席するようにしていますが、年に一度のお祭りを楽しみに集まってこられる地域の方々の楽しそうな笑顔を見るだけで、こちらまで元気づけられる想いがします。祭りは人を、地域を元気にし、活性化し、それがまちの活力を産みだします。その「活力」こそが今の山陽小野田市には、何よりも大切なものだと、市民祭りをリードした青年たちの、達成感いっぱいの笑顔が物語っているようでした。

## 「職員提案」制度についてご紹介します

市職員を対象に、市民サービスの向上に結びつくアイデアを募集する「職員提案」制度を平成17年度から行っています。昨年度は、「文書管理システムの導入」と「電話応対マナーの改善」の2件について採用し、先日、表彰をおこないました。すでに稼働し、内部の

## 対話の日

【いずれの会場も19:00から】



11月27日(木)ケアセンターさんよう

12月11日(木)港町自治会館

事務処理の効率化に大きく貢献した前者と、市民との接遇マナーについて再徹底を促した後者は、いずれも、その効果はもちろんのこと、職員、つまり市役所内部から意識改革をすすめていこうという姿勢が形となって現れたものという点で大いに評価に値するものです。

「効率的な行財政運営」とはまさに「言うは易く行うは難し」ではありますが、「千里の道も一歩から」と言われるように、コツコツと積み上げていくしか成らないものです。「職員提案」という形で、その「一歩」を職員が自らの足で踏み出そうとしたことについては、手放しでうれしく思います。改革の「芽」を更に伸ばそうと奮闘する、改革の「目」をもった職員が次々と現れることを期待しています。

今月号より、このコラムのページの下に「サポート寄附(ふるさと納税)」の累計額を掲載することにしました。本格的に取り組んでまだ3か月ですが、予想を超える額の寄附をいただいています。次号では、その現状などご報告をする予定にしています。引き続き、市民のみなさんも呼びかけをお願いします。



▲熱心に授業を視察する訪問団（厚狭中学校）

## アメリカの教職員が本市を視察訪問しました

10月20日から1週間の日程で、アメリカの教職員16人が本市に滞在し、市内の学校を視察しました。意見交換会では、本市が行っている「生活改善・学力向上プロジェクト」について多くの質問があり、関心の高さがうかがえました。「(山陽小野田市と)似たような試みを、ある地区で行ったところ、一定の成果がでたので、今では州全体に広がっている」と先駆的な取り組みを紹介してくれたのはニューヨーク州の教員。教育改革の手法は世界共通なのかもしれませんね。

「広報さんようおのだ」 2008/11/15 - 3 -

サポート寄附（ふるさと納税）

本年度累計

【15件】

620,000円

（11月5日現在）